

1. 日本側参加研究者の体制

①採択年度(和暦)	平成30	年度	②採択期間 (通常A型は5年間、B型は3年間)	5	年間 (1年未満は 切上げ)	③事業の型 (AまたはBを記入)	A	型
④日本側拠点機関名(和文)	神戸大学							
⑤コーディネーター部局名・ 職名・氏名(和文)	先端融合研究環・特命教授・和氣弘明							
⑥日本側協力機関名(和文)(適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
東京大学、山梨大学、慶応義塾大学、国立研究開発法人理化学研究所、東北大学、国立長寿医療研究センター、名古屋大学								

⑦参加研究者数内訳 (重複カウントしないこと)	教授級 以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	7	13	3	20	1	44	0
協力機関・協力研究者	11	23	14	26	3	77	3
合計	18	36	17	46	4	121	3

⑧手引2-4記載の参加資格のない者の内訳(適宜、行を加除。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)

所属・職	専門分野	研究交流での役割
神戸大学医学研究科薬理学分野・技術補佐員(承認番号A18-8-18Y-11)	薬理学・神経科学	RNA-SEQを始めとした遺伝子解析技術による共同研究の遂行
国立研究開発法人理化学研究所・テクニカルスタッフ(承認番号A18-8-18Y-13)	神経科学	2光子顕微鏡による生体イメージングの技術活用
国立研究開発法人理化学研究所・テクニカルスタッフ(承認番号A18-8-18Y-14)	神経科学	2光子顕微鏡による生体イメージングの技術活用
国立研究開発法人理化学研究所・テクニカルスタッフ(承認番号A18-8-18Y-15)	神経科学	2光子顕微鏡による生体イメージングの技術活用

⑨「第三国所属の研究者」内訳(平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)

所属機関所在国・ 所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	日本側参加者として一体的な協力体制を 確保する方法
オーストラリア・University of New South Wales・associate professor	神経科学	神経科学およびグリア研究に精通し、拠点における外国人客員教授として研究を実施	神戸大学拠点における外国人客員教授の称号付与
オーストラリア・The Australian National University・professor	神経科学	光学系に精通し、グリアの多点高速刺激システムの構築を拠点で実施。客員教授の称号を付与され研究を実施している	神戸大学拠点における外国人客員教授の称号付与
英国・University College London・Professor	生化学・眼科	神経科学およびグリア研究に精通し、拠点における外国人客員教授として研究を実施	山梨大学拠点における外国人客員教授の称号付与

2. 経費

事業の型 A 型			
①当該年度の本事業による経費の支出			
経費内訳		金額 (単位:円)	備考
研究 交流 経費	国内旅費※1	430,450	
	外国旅費※1	8,482,746	
	謝金	0	
	備品・消耗品購入費	936,726	
	その他経費	858,236	
	不課税取引・非課税取引 に係る消費税 ※2	875,458	税率引上げ前の差額2%分は大学負担とする
	計	11,583,616	
業務委託手数料		1,158,361	研究交流経費の10% (1円未満切捨)。消費税額は内額とする。
合計		12,741,977	

※1「国内旅費」「外国旅費」の合計が、研究交流経費支出額の50%を超えていない場合、備考欄にエラーが出ます。

※2 受託機関における課税、非課税(免税)の区分に応じ対象額を算定のこと。受託機関で負担の場合はその旨、備考欄に記載すること。

②研究交流経費(総額)の30%に相当する額を超える各経費費目の増減があった場合の説明事由(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)

該当なし			
日本 側 の 旅 費	③ 日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本である者の旅費の総額 (単位:千円)		8,913
	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本以外である者の旅費の総額 (単位:千円)		日本→日本以外の渡航
			日本以外→日本の渡航
(単 位: 千 円) ④ (B 型 の 研 究 者 の 旅 費 の 総 額)	日本または相手国 →日本の渡航	(単 位: 千 円) 左 記 の う ち、 第 三 国 所 属 の 相 手 国 側 の 旅 費 の 総 額	日本または相手国 →日本の渡航
	日本又は相手国 →相手国の渡航		日本又は相手国 →相手国の渡航
	日本または相手国 →第三国の渡航		日本または相手国 →第三国の渡航
	第三国→ 日本の渡航		第三国→ 日本の渡航
	第三国→ 相手国の渡航		第三国→ 相手国の渡航
	第三国→ 第三国の渡航		第三国→ 第三国の渡航

※旅費は、往復の金額で記載すること(例:第三国から日本に渡航の場合、第三国→日本→第三国の往復の渡航費を「第三国→日本の渡航」の欄に記載)。

経由国がある場合は、日本側拠点機関の規定等に基づき、旅費の分類・切り分けを行い、記入すること。

⑤ (B型のみ) 中国・韓国・シンガポール・台湾側参加者の外国旅費がある場合 (交流経費の5%以内。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
総額 (単位:千円)	手引 2-6 記載の要件を満たす旨の事由説明
該当なし	

⑥相手国マッチングファンド(=相手国側拠点機関が本研究課題に使用した研究交流経費) (単位:千円、千円未満切捨て)		
全相手国のマッチングファンド総額	相手国拠点機関数	相手国拠点機関のマッチングファンド平均
25,521	4	6,380

3. 共同研究・セミナー

事業の型 A 型							
①共同研究（適宜、行を加除すること。）			現在の年度に○を付けること→				
共同研究 整理番号	共同研究課題名（和文）	日本側代表者氏名・所属・職名	1年目	2年目	3年目	A型のみ	
			実施年度に ○を付ける ↓	実施年度に ○を付ける ↓	実施年度に ○を付ける ↓	4年目 実施年度に○を 付ける↓	5年目 実施年度に○を 付ける↓
R 1	オリゴデンドロサイトの機能解析	和氣弘明・神戸大学・教授	○				
R 2	アストロサイト微細突起とシナプス刈り込みの解剖学的検討	小泉修一・山梨大学・教授	○	○	○	○	○
R 3	グリア細胞が生み出すMRI信号の特徴抽出	田中謙二・慶応義塾大学・准教授	○				
R 4	マウスにおける脳卒中時の脳脊髄液-間質液交換の解析	平瀬肇・理化学研究所・チームリーダー	○	○	○	○	○
R 5	経頭蓋直流電気刺激（tDCS）によるグリア伝達物質放出メカニズムの解明	毛内拓・理化学研究所・客員研究員		○	○		
R 6	てんかん病態における、細胞外K ⁺ 調節機構の破綻	松井広・東北大学・教授		○	○		
R 7	ミクログリアの生理機能と遺伝子発現変化を担う分子基盤	和氣弘明・神戸大学大学院医学研究科・教授		○	○	○	○

共同研究の実施状況（当該年度実施の共同研究について、共同研究整理番号毎に、特筆すべき成果、相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果、研究協力体制の構築状況等について記載すること。また、手引6-3変更事例No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）

【日本→デンマーク】
 2019年6月30日～2019年7月16日、理研CBS平瀬研究室より三嶋恒子研究員がコペンハーゲン大学Nedergaard研究室へ訪問。技術供与（ウイルス投与）および共同研究実験を行う。
 2020年1月12日～2020年2月1日、理研CBS平瀬研究室より大江祐樹研究員がコペンハーゲン大学Nedergaard研究室へ訪問。共同研究実験を行う。
 2020年1月12日～2020年1月18日、理研CBS平瀬研究室より矢作和子テクニカルスタッフがコペンハーゲン大学Nedergaard研究室へ訪問。技術共有（分子生物実験関連）および最新の研究成果の交換を行う。

【デンマーク→日本】
 2019年度後半に理研CBS平瀬研究室への来訪を希望するコペンハーゲン大学Nedergaard研の大学院生がいたが、コロナ禍のため断念。

【ドイツ→日本】
 2020年3月にドイツ(Petr Unichenko)・日本（お茶の水女子大・毛内拓先生）がコペンハーゲン大学のNedergaard/平瀬研で実験を行う予定であったが、コロナ禍により断念。

②セミナー（当該年度開催分について、記載。適宜、行を加除すること。）				
セミナー 整理番号	セミナー名（和文）	セミナー名（英文）	開催地（国名・都市名・会場名）	開催期間（○年○月○日～○年○月○日（○日間））
S 1	日本学術振興会研究拠点形成事業 第2回国際グリア合同セミナー	JSPS Core-to-Core Program The 2nd Glial Heterogeneity SPP1757	カナダ、ケベックシティ Centre de recherche du CHU de Québec	2019年8月1日～3日
S 2	日本学術振興会研究拠点形成事業 第2回国際グリア若手セミナー	JSPS Core-to-Core Program The 2nd Young Glia Meeting	カナダ、ケベックシティ Centre de recherche du CHU de Québec	2019年8月1日～3日

セミナーの開催状況（当該年度開催のセミナーについて、セミナー整理番号毎に、参加者数（総数、参加国名ごとの参加人数（本事業経費による負担の有無を問わない）、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況、相手国とのネットワーク形成、若手の育成等の効果等について記載すること。また、手引6-3「軽微な変更の事例」の変更事項No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）

カナダケベックにて日本学術振興会研究拠点形成事業第2回 国際グリア合同セミナーおよび若手セミナーを開催した（参加者数37人、うち日本から17人）。それぞれの共同研究成果および研究成果を発表し、議論を行った。また若手セミナーにおいて、共同研究のマッチングを行い、2両日で議論の未、若手7組の発表審査を行い、それぞれ4組の共同研究を採択し、サポートすることになった。続けて、モントリオールでISN-ASNに参加し、それぞれの共同研究成果および研究成果を発表するとともに情報収集につとめた。

③当該年度に第三国でのセミナー開催があった場合の、本事業の位置づけ、第三国で開催する経済的かつ合理的な理由、そして相手国側拠点との開催経費の分担状況

該当なし

④該年度に開催のセミナーで、参加研究者以外の者に本事業経費を使って基調講演を依頼した場合の、日本側拠点機関にとってのメリット

該当なし

4. 研究交流状況

事業の型 A 型							
①日本→海外の渡航数（本事業経費による渡航）（適宜、行を加除すること。）							
国名（派遣先） 第三国は、国名の後に（第三国）と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数（該当の場合のみ） 役職ごとの内訳も（ ）書きで併記のこと。 記入例：4（教授級以上1、大学院生3）
1 ドイツ	0	1	0	1	0	2	
2 デンマーク	0	0	1	0	1	2	
3 カナダ	3	6	2	5	0	16	
計	3	7	3	6	1	20	
第三国への渡航がある場合は、各渡航について、手引4-4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も）満たす旨の事由説明 （適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
該当なし							

②海外→日本の渡航数（本事業経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
国名（派遣元） 第三国は、国名の後に（第三国）と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数（該当の場合のみ） 役職ごとの内訳も（ ）書きで併記のこと。 記入例：4（教授級以上1、大学院生3）
1 該当なし						0	
計	0	0	0	0	0	0	
第三国からの渡航がある場合は、各渡航について、手引4-4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も）満たす旨の事由説明 （適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
該当なし							

③日本以外→日本以外の渡航数（本事業経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）								
国名（派遣元）	国名（派遣先）	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない 者・その他	合計	うち、31日以上 の渡航数（該当の場合のみ） 役職ごとの内訳も（ ）書きで併記のこと。 記入例：4（教授級以上1、大学院生3）
1 該当なし							0	
計		0	0	0	0	0	0	
各渡航について、手引4-4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も）満たす旨の事由説明（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）								
該当なし								

④海外→日本の渡航数（相手国側経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
国名（派遣元）	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計	
1 該当なし						0	
計	0	0	0	0	0	0	

⑤日本→海外の渡航数（相手国側経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
国名（派遣先）	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計	
1 該当なし						0	
計	0	0	0	0	0	0	

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	ドイツ
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: ザールランド大学 英文: Saarland University	
③コーディネーター所属 (英文)	Molecular Physiology・Professor・KIRCHHOFF, Frank
④協力機関名(和文および英文)(行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: エアランゲン・ニュルンベルグ大学 英文: Friedrich-Alexander University of Erlangen-Nurnberg	
和文: ルートヴィヒ・マクシミリアン大学 英文: Ludwig-Maximilians University Munchen	
和文: ボン医科大学 英文: University of Bonn Medical Center	
和文: ライプツィヒ大学 英文: University of Leipzig	
和文: ハインリッヒ・ハイネ大学 英文: Heinrich Heine University	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	2	0	6	9	0	17	
協力機関・協力研究者	24	0	0	2	0	26	
合計	26	0	6	11	0	43	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)

所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)

所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 ¥11,583,616			
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例: 2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)
A型のみ: パターン種別 パターン1か2を記入すること	1	Deutsche Forschungsgemeinschaft	DFG SPP 1757:	5,900	2019.3.1	EUR	127
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	◎						
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	○						
(5)相手国側研究者の研究経費	○						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×						
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	-	合計		5,900			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSCRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	カナダ
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: モントリオール大学 英文: University of Montreal	
③コーディネーター所属 所属局・職名・氏名 (英文)	Department of Neuroscience・Professor・ROBITAILLE, Richard
④協力機関名(和文および英文)(行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: ラバール大学 英文: University LAVAL	
和文: トロント大学 英文: University of Toronto	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	1	0	5	6	0	12	
協力機関・協力研究者	2	1	4	9	0	16	
合計	3	1	9	15	0	28	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -	⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 ¥11,583,616			
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1	Fonds québécois de la recherche-Nature	Research teams	210	2019.2.27	CAD 84.6
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×	Canadian Insititutes of Health Research	Main Operating Grant	312	2019.2.27	CAD 84.6
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	○	Natural Sciences and Engineering Research	Discovery grants	169	2019.2.27	CAD 84.6
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×	Canadian Insititutes of Health Research	Foundation Scheme	345	2019.2.27	CAD 84.6
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	○					
(5)相手国側研究者の研究経費	○					
(6)相手国開催のセミナー開催経費	◎					
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	-	合計		1,036		

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	米国
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: マウントサイナイ大学 英文: Icahn School of Medicine at Mount Sinai	
③コーディネーター所属 部署局・職名・氏名 (英文)	Center of affective Neuroscience・Director・RUSSO, Scott J
④協力機関名(和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: 該当なし 英文: 該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	3	2	2	3	0	10	
協力機関・協力研究者	0	0	0	0	0	0	
合計	3	2	2	3	0	10	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 ¥11,583,616			
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1	Icahn School of Medicine at Mount	Mindich Child Health and Development Institute	14,500	2019.1.7	USD	107.3
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	◎						
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	○						
(5)相手国側研究者の研究経費	○						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×						
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	-	合計		14,500			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EP SRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	デンマーク
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文: コペンハーゲン大学 英文: University of Copenhagen	
③コーディネーター所属 局・職名・氏名 (英文)	Section for Translational Neuroscience・Professor・NEDERGAARD, Maiken
④協力機関名 (和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: 該当なし 英文: 該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	1	0	1	3	0	5	
協力機関・協力研究者	0	0	0	0	0	0	
合計	1	0	1	3	0	5	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)			
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)		
該当なし			
⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 ¥11,583,616			
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1	NIH/NINDS/NIA	NIH supported research funds	2,113	2019.1.7	USD	107.3
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×	NIH/NIA	NIH supported research funds	835	2019.1.7	USD	107.3
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	◎	NIH	NIH supported research funds	1,137	2019.1.7	USD	107.3
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	○						
(5)相手国側研究者の研究経費	○						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×						
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	-	合計		4,085			

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EP SRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。